

コンテナを用いたクリーンラーチ挿し木苗幼苗の生産技術の開発

林業試験場 保護種苗部 育種育苗グループ
林業試験場 道北支場

今 博計・石塚 航・黒丸 亮
来田和人

本研究は生物系特定産業技術研究支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業」(うち地域戦略プロジェクト)の支援を受けて実施している。

研究の背景・目的

北海道ではクリーンラーチ苗の需要を満たすため、挿し木による苗木生産を行っています。現在、毎年40~60万本挿し付けていますが、そのうち成苗数は12~13万本に留まっています。本研究では、失敗原因を明らかにするとともに、小型コンテナを用いた幼苗の生産技術を開発することを目的としました。

生産の現状

10年間で挿し付け数は増加したが...

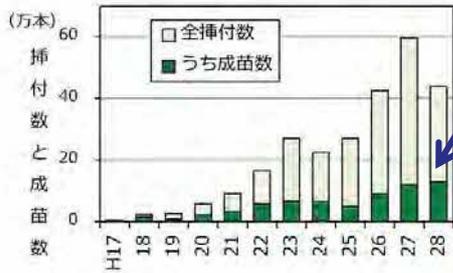


図1 挿し付け数と成苗数の推移

得苗率 (挿し付けに対し成苗になった割合) が 20%前後→12万本しか生産できていない!

挿し付け後に失敗

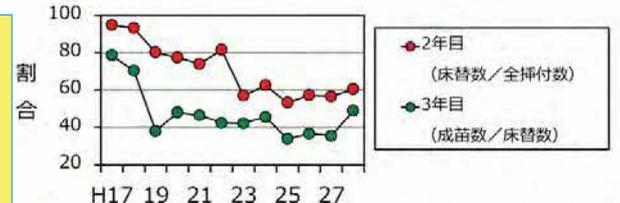


図2 育苗ステージでの良否

挿し付け時期の影響

6月下旬~8月上旬に集中

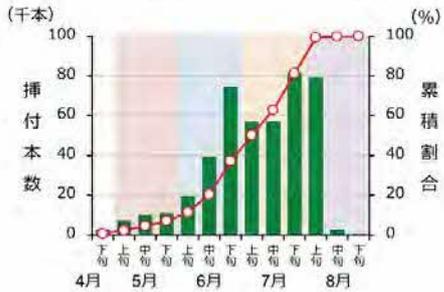


図3 時期別の挿し付け本数と累積割合
聞き取り15者 44万本

挿し付けが遅いと発根率も低く根量も低下します

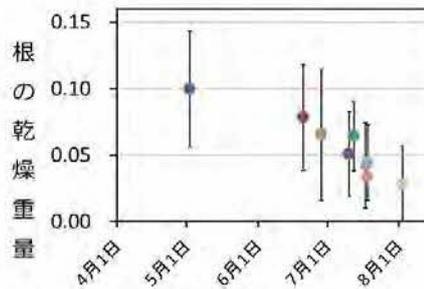


図4 挿し付け日と10月の根量との関係

根量が少ないと成績悪い

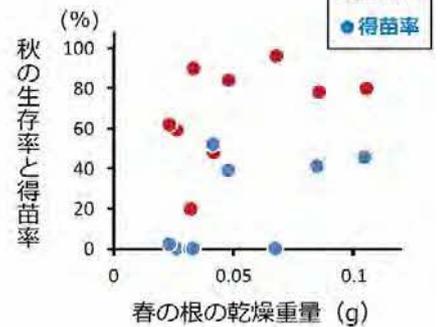


図5 春の根量と10月の生存率と得苗率との関係
得苗率：2号規格に到達した苗の割合

結論

得苗率が向上しない原因は、生産スケジュールにある。6月末には挿し付けが終わる**スケジュールの見直し**が必要

改善策

根量を上げる技術

台木管理

用土元肥

グルタチオン

オスモコート

光合成能力が高まり成長が促進

KANEKA

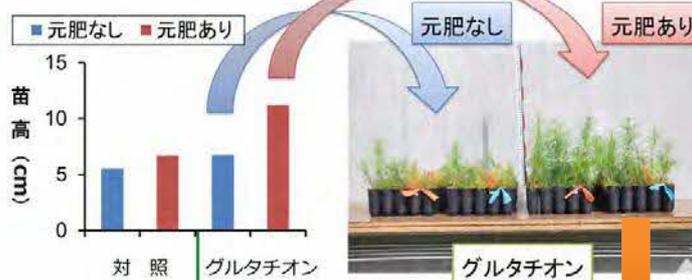


図6 苗高に対するグルタチオンと元肥の効果

グルタチオンと元肥の施用による相乗効果

